

着物生地で洋服作りに挑戦



深 高養校と呼布の会交流 美 ファッションショーで披露

【美深】美深高等養護学校(大泉直哉校長)

の被服デザイン科の生徒と、美深で活動している文化サークルの呼布の会(藤原茂子会長)の交流授業が10月28日、同校で行われた。

呼布の会では主な活動として、使われなくなった古い着物の生地を素材とし、再利用した洋服の制作に取り組んでおり、作り上げた服は地域のイベントで展示したり、ステージイベントでファッションショーを開いたりすることで地域住民に披

露している。

今回の交流授業では、被服デザイン科2年の生徒6人と藤原会長ら呼布の会の会員4人が参加。作業では古

い着物や帯の生地を素材として活用し、生徒それぞれがスカートや

スボンといった履物の洋服を主に製作した。

生徒たちは、前週や当日の朝から事前の作業を行い、交流授業の中で作品を形に出来るように準備。授業の終

盤には出来上がった服を生徒たちが自分で着用し、格好良く披露するファッションショーを実施した。

同科生徒の佐藤彩美さんは今回の作業について、「着物の生地で作るのは初めてで、布がだんだんはついていって大変だったが、布の良さをどう生

かして作るのかと考えたのが面白かった」と話した。藤原会長は「皆

さん素晴らしいデザインで、こちらもとても

勉強になった」と感心していた。

今回製作された洋服は、町民文化祭で展示されている。

(安積祥紀)

被服デザイン科の生徒と呼布の会のメンバーが交流授業を行った